

登園基準について

厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」に沿った登園基準についてお知らせします。下記基準を守って登園してください。

(1) 発熱の場合

登園を抑えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<p>* 発熱期間と同日の回復期間が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝から37.5℃を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い ・食欲がなく朝食・水分が摂れていない ・24時間以内に解熱剤を使用している ・24時間以内に38℃以上の熱が出た 	<p>* 前日38℃を超える熱がでていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱が37.5℃以下で元気があり機嫌がよい ・顔色がよい ・食事や水分が摂れている ・発熱を伴う発しんが出ていない ・排尿の回数が減っていない ・咳や鼻水を認めるが増悪していない ・24時間以内に解熱剤を使っていない ・24時間以内に38℃以上の熱はでていない 	<p>* 38℃以上の発熱がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気がなく機嫌が悪い ・咳で眠れず目覚める ・排尿回数がいつもより減っている ・食欲なく水分がとれない <p>※熱性痙攣の既往児は医師の指示に従う</p>

(2) 下痢の場合

登園を抑えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の水様便がある ・食事や水分を摂ると下痢がある(1日に4回以上の下痢) ・下痢に伴い、体温がいつもより高めである ・朝、排尿がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染のおそれがないと診断されたとき ・24時間以内に2回以上の水様便がない ・食事、水分を摂っても下痢がない ・発熱が伴わない ・排尿がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や水分を摂ると刺激で下痢をする ・腹痛を伴う下痢がある ・水様便が2回以上みられる

(3) 嘔吐の場合

登園を抑えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none"> ・24時間以内に2回以上の嘔吐がある ・嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである ・食欲がなく、水分もほしがらない ・機嫌が悪く、元気がない ・顔色が悪くぐったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染のおそれがないと診断されたとき ・24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・発熱がみられない ・水分摂取ができ食欲がある ・機嫌がよく元気である ・顔色がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・咳を伴わない嘔吐がある ・元気がなく機嫌、顔色が悪い ・2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く ・吐き気がとまらない ・お腹を痛がる ・下痢を伴う

(4) 咳の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<p>* 前日に発熱がなくても</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間しばしば咳のために起きる ・喘鳴や呼吸困難がある ・呼吸が速い ・37.5℃以上の熱を伴っている ・元気がなく機嫌が悪い ・食欲がなく朝食・水分が摂れない ・少し動いただけで咳がでる 	<p>* 前日38℃を超える熱はでていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喘鳴や呼吸困難がない ・続く咳がない ・呼吸が速くない ・37.5℃以上の熱を伴っていない ・機嫌がよく、元気がある ・朝食や水分が摂れている 	<p>* 38℃以上の発熱がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咳があり眠れない ・ゼイゼイ、ヒューヒュー音があり眠れない ・少し動いただけでも咳がでる ・咳とともに嘔吐が数回ある

(5) 発疹の場合

登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合
<ul style="list-style-type: none"> ・発熱とともに発しんのあるとき ・今までになかった発しんが出て、感染症が疑われ、医師より登園を控えるよう指示されたとき ・口内炎のため食事や水分が取れないとき ・とびひ 顔等で患部を覆えないとき 浸出液が多く他児への感染のおそれがあるとき かゆみが強く手で患部を掻いてしまうとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診の結果、感染のおそれがないと診断されたとき 	<p>* 発しんが時間と共に増えたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発熱してから数日後に熱がやや下がるが、24時間以内に再び発熱し赤い発しんが全身に出てきた。熱は1週間くらい続く（麻疹） ・微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱が出る。膝やおしりに出ることもある（手足口病） ・38℃以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発しんが出てきた（突発性発しん） ・発熱と同時に発しんが出てきた（風しん、溶連菌感染症） ・微熱と両頬にりんごのような紅斑が出てきた（伝染性紅斑） ・水疱状の発しんがある。発熱やかゆみは個人差がある（水痘）